

16 年 6 月 22 日



四国電力株式会社

高松市丸の内2-5

TEL 087-821-5061

FAX 087-825-2099

F A X 送 信 票

宛 名

日本原子力産業会議

キハラ

殿

送付者

原子燃料部

計画・調達グループ

岡田 寛明

(送付枚数(表紙を含む) 2 枚)

070-5750-4515

件 名

当社とフランスとの関係

MEMO

お世話になっております。

さて、先日6月17日 Fax いたしました資料の追加として

別紙を送付させていただきます。よろしくご査収下さいませ

お願い申し上げます。

平成16年6月21日

四国電力株式会社

当社とフランスとの原子燃料調達における関係

当社は、1970年頃に先行日本電力がカナダ・アメリカ・南アフリカなどの既存ウラン資源大国を供給ソースとするなか、ウラン市場への新規参入者であったフランスとの間で、日本で最初のウラン売買契約（フランス原子力庁との天然ウラン購入契約）を1970年に締結し、伊方発電所1号機の初装荷燃料の調達を行った。当社としては、本契約が、今日のフランスとわが国との原子燃料サイクルに関する緊密な関係の礎になったと考えている。

また、伊方発電所2号機については、近藤会長が核燃料部長時代の1979年に、初装荷用濃縮ウランをユーロディフから購入して以降、ウラン精鉱はユラネックス社と、転換役務はコミュレックス社と、濃縮役務についてはCOGEMA社との間でそれぞれ契約を締結し、フランスから輸入した燃料を一貫して使用するなど、フランスは、当社の原子燃料供給において、長年にわたり重要な役割を担ってきている。

こうしたなか、駐日フランス大使モンフェラン殿が、日本で初めての原子力発電所視察先として、伊方発電所を本年5月26日にご視察になられ、「今回の訪問を機に、原子力における仏日間の交流が進むことを望んでいる」とご発言され、近藤会長からは、「原子燃料及び発電技術等を通じて、今後ともフランスとの信頼関係を維持しながら、伊方発電所の安定運転を進めていきたい」と応えるなど、当社としても、仏日間の交流進展の一翼を今後とも担ってゆく所存である。

以 上